



AJEL

日本ラテンアメリカ学会 会 報



AJEL

1999年12月1日

No. 70

1. 理事会報告 (第89回)
 - ホームページの開設
 - 第21回定期大会報告募集
 - 理事選挙について
2. 研究部会開催のお知らせ
 - 中部日本部会
 - 西日本部会
3. 学術・文化情報
 - 海外ラテンアメリカ研究センター紹介 (22) (23)
 - 研究動向
 - ペルー・ワークショップ
 - アジ研の移転について
4. 事務局から

1. 理事会報告

第89回理事会

日 時：1999年10月2日(土) 14:00~17:00

場 所：上智大学中央図書館 L-522会議室

出席者：国本伊代(理事長)、小林(一)、

中牧、小林(致)、西島、清水、

高橋、辻、恒川、飯島(書記)

(委任) 遅野井、染田

<報告事項>

1. 前回理事会の議事録を承認した。
2. 各委員会報告
 - (1)年報第20号への投稿希望者が予想以上に多く、予定した欧文目次の掲載は困難となったことが報告された。
 - (2)会報69号が発送された。
 - (3)次回研究会は、東日本部会が11月末ない

し12月初旬、西日本部会が12月中旬に開催の予定である。

(4)開催校の京都外語大所属会員を中心とした大会実行委員会の初会合が10月中旬に開催される予定となり、辻理事に実行委員会委員長の任務を依頼した。

(5)年報、会報の寄贈と交換購読の条件について意見を交わした後、ラテンアメリカ関係の学術誌に限り年報との交換の対象とすること、学会事務局への寄贈図書・論文(抜刷可)は民博で集中保管すると共に、学会ホームページにリストアップすることを確認した。

(6)学会ホームページは8月はじめに学術情報センター・サーバーへのリンクを完了。更新は逐次中牧研究室で行なう。

<審議事項>

1. 退会希望者3名の退会を承認した。
2. 入会希望者5名の入会を承認した。
3. 選挙管理委員会の委員を、規定に従い理事長が推薦した中川和彦、丸谷吉男、畑恵子、奥山恭子、中山忠幸の各会員に委嘱することを承認した。なお理事会から連絡調整役として必ず一名が委員となることとし、今回は理事長がこれを兼任することになった。

選挙管理委員会

理事会の承認にもとづいて構成された選挙管理委員会が10月30日(土)に開催され、委員の互選により、中川和彦会員が委員長に選ばれた。

学会ホームページの開設と寄贈図書の扱いについて

学会のホームページが開設されました。サーバーは学術情報センターにおかれ、アドレスは <http://www.soc.nacsis.ac.jp/ajel/> です。

更新や問い合わせはホームページ担当理事（中牧）までご連絡ください。

nakamaki@idc.minpaku.ac.jp

なお、ホームページでは研究会の案内や会員の最新刊行物の情報も表示しています。学会ではこれまで会員の刊行物を受け入れてきましたが、それらは逐次、民博の図書館に移管し収蔵されています。今後ともいっそうの充実をはかりますので、寄贈図書（抜刷を含む）は理事長宛（中央大学商学部国本研究室）に送付して下さい。またホームページでも論文や単行本の刊行案内を載せますので、こちらのほうは中牧理事までふるって情報をお寄せください。

理事選挙の郵便投票制について

『会報』前号でお知らせしたとおり、理事選挙に郵便投票制を導入することになりました。これに伴い理事選挙規則および会則が次のように改訂されます。（下線が改訂箇所）

（理事選挙規則）

第3条（選挙権および被選挙権）

選挙権および被選挙権は、選挙実施年度の実施時点において、正会員であり、実施前年度の1月末までに会費を完納した者が有する。

第4条（選挙の方法）

1. 選挙は郵便投票をもって行なう。

（会則）

第13条（役員を選出）

3. 監事は、前年度1月末までに会費を完納した正会員の中から総会において選出する。

第3条の変更は、学会事務センターへの事務一部移行に伴い、会費が前納制となったためです。1月末までに完納していただきませんと選挙権・被選挙権の確認ができません。

また選挙人・被選挙人名簿（これをもとに投票していただくこととなります）は会員全員ではなく、有権者と認められた会員にのみ送付されますのでお気をつけ下さい。

2. 研究部会開催のお知らせ

東日本部会 日 時：12月11日（土）予定 お問い合わせは担当理事（高橋）まで	西日本部会 日 時：12月18日（土）午後1:00－4:00 場 所：神戸大学六甲台キャンパス第4学舎 2階共同研究室 （神戸市バス36系統神大正門前下車） 上嶋俊一（神戸大学大学院） 「ラテンアメリカ民営化に見る政府の役割－ 電力セクターを事例として－」 柴田修子（大阪経済大学非常勤講師） 「ラカンドン密林への入植過程」 西島章次（神戸大学経済経営研究所） 「ラテンアメリカにおける第2世代の 政策改革」 お問い合わせは担当理事（西島）まで
中部日本部会 日 時：12月11日（土）午後2:00－5:30 場 所：南山大学L棟 509会議室 青木葉子（名古屋大学大学院国際言語文化 研究科） 「メキシコの魔女についての一考察」 三輪千明（名古屋大学大学院国際開究研究科） 「構造調整以降の基礎教育政策 ：分権化と民営化」 お問い合わせは担当理事（遅野井）まで	

3. 海外ラテンアメリカ研究センター紹介 (22)

メソアメリカ地域研究センター

(CIRMA, Centro de Investigaciones Regionales de Mesoamérica)

グアテマラの古都アンティグア。首都から車でわずか1時間弱離れるだけで、雰囲気はがらりと一変する。週末はよそものが溢れる一大観光地だけに、これを嫌って首都へ逃げてくる住民もいるほどだが、大抵の用事がのんびり徒歩で済むところは有難い。文化活動の面でもグアテマラ市にひけを取らない。そのアンティグアのセントロからほんの一ブロック、カテドラルの裏手に、1978年創立のCIRMAがある。

古都にふさわしく、CIRMAそのものも中庭と回廊の美しい典型的なコロニアル建築の邸宅を本部としている。建物だけでも一見の価値ありといえるだろう。筆者の滞在中には、ちょうどミゲル・アンヘル・アストゥリアスの生誕百周年を期し、記念番組の取材にやってきたフランスのテレビチームが、アストゥリアスの長男ロドリゴ(又の名は元ORPA司令官ガスパル・イロム)氏へのインタビューを、CIRMAの一角で撮影していた。

CIRMAの目玉は、何といってもその写真コレクションにある。1870年から現在に至るといいうグアテマラ近現代史の貴重な写真約2万5000葉の中には、遺跡発掘現場を写した考古学研究に資する作品から、19世紀末のコーヒー農園の内情や1917年の地震による惨状など人類学的・社会史的観点から第一級の資料といえるもの、エストラダ=カブレラ政権の退陣、グアテマラ革命(1944-54年)とアルベンス政権の崩壊など政治上の転機を画すきわめて意義深い映像証言までもが収められている。

しかもアンティグアは、中米における数少ない日系移民のひとり、そして今日グアテマラ写真界の祖ともみなされているファン・ホセ・デ・ヘスス・ヤス(1844-1917年)が写真館を構えたゆかりの地であることから、CIRMAは彼とその甥ホセ・ドミンゴ・ノリエガの作品を多数所蔵し、回廊部分をうまく利用して随時写真展も開かれている。(目下CIRMAを拠点としてヘスス・ヤス研究に従事している日本人留

学生がいるとの話も耳にした。)

そのほか図書資料室には、アストゥリアスが記者として参画した『エル・インパルシアル』紙のコレクション、グアテマラを中心とした中米専門週刊情報誌『インフォプレス・セントロアメリカナ』が依拠した各国紙の切り抜きコレクション、メキシコ南部からパナマにわたるメソアメリカ全域をカバーする文献2万3000冊、6000点のパンフレット類、1000点を越える地図等々、膨大な資料が揃っている。

CIRMAは内外の財団から寄せられる資金を軸に運営される非営利団体であり、趣旨に賛同する個人・団体の寄付を歓迎している。写真資料の管理には入念な修復・保存作業が必要であり、ようやく和平を達成したグアテマラそして中米における歴史の再構築を進めてゆく上で、CIRMAのような地道な努力は是非幅広く支えられてほしいものだと思う。もちろん研究者の受け入れ、独自の研究プロジェクト実施にも積極的である。

現所長はタニ・アダムズ氏。中米研究者なら一度は必ず文献上お世話になっている米国人研究者、リチャード・N・アダムズのお嬢さんである。

CIRMA

5a. Calle oriente No.5

Antigua Guatemala

03001 Guatemala, C.A.

Tel.(502)832-0126, 1006, 1007

Fax.(502)832-2083

e-mail: cirma@guate.net

郵便宛先は

CIRMA GUA40

POBox 02-5368, Miami

FL.33102-5368, U.S.A.

もしくは

CIRMA

Apartado Postal 336

Antigua Guatemala

(飯島みどり 立教大学)

海外ラテンアメリカ研究センター紹介 (23)

メキシコ社会人類学高等調査研究所

(CIESAS, Centro de Investigaciones Y Estudios Superiores en Antropología Social)

私が1999年4月から1年間の客員研究調査員として着任することになったCIESASは、かつて大農園・果樹園・採石場であったトランプン地区に位置している。クエルナバカ、タスコ、アカプルコへの長旅の宿場町として栄えただけに、今でも植民地時代の雰囲気があり、環境は静謐で、古い石畳の街路の両脇には深い樹木の豪邸が並んでいる。

CIESASの前身は、国立人類学歴史学高等調査研究所(CISINAH)で、1973年に三人の優れた人類学者ゴンサロ・アギレ・ベルトラン、ギジェルモ・ボンフィル・バタリャ、アンヘル・パレルモにより創設され、1980年に大統領令に基づき文部省下、現研究所として誕生し、国内25高等教育・研究所とともに国立科学・技術審議会(CONACyT)と連携している。創設目的は人類学調査を通じてメキシコの社会的・文化的現象の理解を深め、専門家を養成(大学院教育)することにある。

五都市(首都、グアダハラハラ市、オアハカ市、ハラパ市、サンクリストバル・デ・ラス・カサス市)に研究所本部が、チュトゥマル市に支部が設置され、ほぼメキシコ全土をカバーしている。文化(社会)人類学のような社会科学系の調査・研究活動は、地域に密着しているので、中央集権よりも地方主権型に適しており、国家レベル・地方レベルでこのシステムはよく機能している。現在フルタイムの専門調査・教員の総数は130名(博士号80名、修士号38名、学士号12名)を数え、次の17の調査活動が挙げられる。環境と社会、人類学と宗教史、人類学と科学史、人類学と教育史、人類学と災害史、人類学と人口統計学、人類学と政治学、経済人類学、法人類学と人権問題、医療人類学、都市人類学と政治学、文化とイデオロギー、碑銘学と歴史民族学資料分析、言語学、歴史民族学、経済・社会史、エスニック関係と共同体のアイデンティティ。

CIESASは1975年より500人余の大学院生を受け入れてきた。社会人類学修士課程は首都校、グアダハラハラ校とサンクリストバル校で、言語学修士課程は首都校で、社会科学博士課程はグアダハラハラ校で、と

各地区研究所ごとに異なる分野の大学院生を募集している。ただし、募集の年度や人数は不定なので、下記の電話・ホームページ・Eメールで確認することをお勧めする。その他、各州の大学や先住民局と提携して資格講座(法人類学、市民権と紛争処理、ラテンアメリカ先住民の人権問題、医療人類学)を開講している。

さて、今日訪れたチャタ校舎(首都校)には、1994年、創設者アンヘル・パレルモにちなんで命名された図書館と出版部および書籍販売部がある。図書館は文化人類学、歴史、言語学など社会科学系の書籍2万5000冊余の蔵書の他に、修了者の修士・博士論文、新聞・雑誌、マイクロフィルム、ビデオカセットなどの閲覧が可能であり、出版部では年間40点を出版している。チャタという愛称がついたのは、直角な四つ角に面した鼻高を削りとったその建物のフォームがchata(鼻べちゃ)だからだという。正面入り口や建築構造はペドロ・アリエタによる古典バロック建築の異端審問所(ソカロの近くに位置)を模したと言われ、1932年に国の文化財指定を受け、1941年に改築された。なお、出版書籍については梟のシンボル・マークは「森の哲学者」に由来している。ちょうど11月の万霊節を迎えたチャタ校舎では、色鮮やかな供花と供物を前にして微笑む創設者アンヘル・パレルモの遺影が祭壇に飾られていた。

研究所事務と図書館の利用時間：午前9時～午後3時まで。

休館日：土・日・祝祭日と7月第四週～8月第一週、および年末週間～元日。

研究所住所：Juárez 87, Tlalpan 14000, México, D.F., Tel y Fax: 5655-9718,

5655-9738, 5573-9066, E-Mail: ciejuare@juarez.ciesas.edu.mx

図書館・書籍販売部住所：Hidalgo y Matamoros, Tlalpan 14000, México, D.F., Apdo. Postal 22-048, Tels. 5655-0059, 5573-4318, E-Mail: ciechata@servidor.unam.mx Internet: <http://www.unam.mx/ciesas/>

(桜井三枝子 大阪経済大学)

研究動向

業績重視とメキシコ人類学の新傾向

加藤隆浩（三重大学）

わずか2ヵ月半だったが、メキシコ社会人類学高等調査研究所（CIESAS）に出入りしているうちに、シエサスそのもの、またはその関連機関や関係者によって、数多くのシンポジウムや研究会、講演、セミナー、展覧会が矢継ぎ早に開催されていることに驚いた。コンパドラスゴ、火山の噴火、民族音楽、エコロジー、医療と社会、アルコリスモ、先住民自立とエスニシティ、ジェンダーとメキシコ社会、オアハカのエスニック・グループの写真展等々、毎週一つや二つは必ず何かの催しに突き当たる。一口に文化人類学と関わるイベントといっても内容は千差万別である。なるほど目を見張るばかりの量だが、だからといってこの動向を「メキシコ研究の興隆の証拠」などと早とちりしない方がいい。というのも、近年のシンポジウムやセミナー、展覧会などの流行は、当のメキシコ人研究者も認めるように、学歴・著作・研究発表等の質と量で研究者を評価し、それに応じて毎月特別手当を支給するという業績重視型の制度 Sistema Nacional de Investigadores や Sistema de Puntaje と密接に関係しているからである。実際、手当はランクによっては給与の半分以上になることも稀でなく、ランクの昇降が直ちに生活に跳ね返ってくるのだから、ことは重大である。したがって、なかには「それらしく」つくろうことだけに精を出し、底の浅いにわか仕立ての催しや、首をかきげざるをえないような編著書づくりに血道をあげる者（これは特に文化人類学に限ったことではないが）も少なくないのである。

そうした粗製濫造ぶりが目立つなかで、とりあえず筆者の関心を引いたのは、8月にハラパ市のシエサス・ゴルフ支局で開催された「第2回 老いと死をめぐる人類学セミナー：新たな1000年に向けての展望」であった。「人類学＝マルクス主義」という暗黙の呪縛

が解け始める1980年代後半までは、メキシコ人による人類学といえば社会経済的なテーマ以外—特に宗教—は軽視されるという一般的事情があっただけに、表題にあるようなテーマが掲げられることそれ自体に新鮮味を覚えたのである。企画責任者F・バスケスは、近年メキシコでは死亡率の低下で高齢者人口が増加し、それが新型の貧困層を形成していく現状を指摘し、そうした現実に鑑みこれまで閑却されてきた老いと死の問題を検討し、来るべき2000年に向け一定の展望を示しておくことが重要な課題である、とセミナーを位置づける。

会議は「老いをめぐる展望」（第1部）と「死をめぐる展望」（第2部）の2部構成で総計10本の論文が読み上げられた。紙面の都合上、題名の列挙だけに留めるが、それでもメキシコ人類学の中で進行中の新しい動向を読みとることができよう。提出された論文は次の通り。「高齢者に対して家族の為すべきことと義務」「IMSS定年退職者の将来」「インディヘナ高齢者の介護」「農民の協力体制と老化のプロセス」「高齢者の展望：インディヘナのコンテクストから」「保健衛生に関する新政策」（以上、第1部）、「エホバの証人にとっての死の想像力」「ペンテコステ派における生と死の形態」「インディヘナの墓地と葬送儀礼」「青少年がいだく死の観念」（以上、第2部）。付言すれば、発表者のほとんどが「新たな1000年」を強く意識する非カトリック系セクトに属す研究者であり、こうしたイベントの組織法もメキシコの宗教研究を外から規定する新しい傾向といえるかもしれない。

— Eメールアドレスをお知らせください —

研究部会の通知を電子メールで行う体制をつくっていますのでメールアドレスを高橋（均）理事までお知らせ下さい。
通知先 htakahas@ask.c.u.tokyo.ac.jp
なお、整理上メールの標題を〔aje19901〕として下さい。

地域研究企画交流センター・ワークショップ報告
(於 国立民族学博物館)

10月8日、同センターがペルー問題研究所との国際共同研究として昨年度から10年間の予定で進めている表題プロジェクトの一環となるワークショップが開催された。現段階はその第一期「ペルー・リマの政治社会変動に関する学際的研究(3年間)」にあたる。(以後、ペルー、アンデス諸国と徐々に対象枠を広げ、最終的には他地域との比較を行う総括研究にいたる計画。) 1. Cecilia Blondet (ペルー問題研究所所長)「ペルーにおける女性の政治参加」、2. Carolina Trivelli (同研究員)「農山村部の貧困と公共政策」、3. Carmen Montero (同研究員)「農山村部における教育問題の現状と展望」の3本の報告と討論のうち、ここでは紙幅の都合上、第1報告の概要を紹介する。

ペルーで女性運動が頭角を現したのは80年以降であるが、それらは共同鍋のような社会運動であって政治闘争ではなかった。経済危機以後、大衆セクターの女性とフェミニストや政治家との間で結びつきが強まりはしたが、政治指導者層と内陸部の農山村や都市のボブラシオンの貧困女性との隔たりは言うまでもなく、地方の女性リーダーとの間にも大きな較差があった。その後誕生したフジモリ政権は、フェミニスト組織の分裂と複数政党体制の欠如を巧妙に利用した。すなわち、女性の政治参画は同政権にとっての社会的支援(世論を味方につける)につながるとみなし、女性向けの政策を次々と打ち出し、政治家をめざす女性側もこの機会に乗じるという形で、一種の「政治市場」の構図ができあがったの

である。その結果、ここ数年で閣僚・官僚の要職に女性が進出し、なかでも国際政治の舞台で活躍する若手女性グループ las regias や、Cambio90のメンバーを構成する日系議員、および政府と協働態勢をとるフェミニストからなる las Fujimoristas が中心的存在である。なお、女性政治家の間にみられる世代間較差はペルーが歩んできた変革の道筋に呼応している。

この報告をめぐり、地方選挙におけるクオータ制(議員の25%を女性と規定)の適用とその限界、96年末の「女性振興・人間開発省」の設置と効用(食糧支給計画や女性の起業支援のための信用供与政策)、ネオリベリズムの競争原理に女性の政治参加はみあうのかが議論された。中央の政治権力に女性が進出するというこの新傾向が維持され女性全体に恩恵と効果をもたらすには、政治参画のための民主的メカニズムの補強が肝要であり、女性政治家が政府と対等な交渉能力をつけ、政界にも世論にも影響力をもつようになることが必要とされる。市民社会と政党制度の脆弱なペルーで民主化の再編成を促進するのに、女性の政治参加はその挑戦への力となるであろうことが確認された。

日本におけるアンデス研究は、考古学や文化人類学の分野を中心に高水準の調査・研究が実施されてきたが、現代の諸問題に関しては組織だった研究はなかったのが実状であるため、本学会員に対してもこの貴重な機会が開放されたことは有意義である。情報や意見の得難い交換ができ、今後ラテンアメリカ諸国間の比較研究につながるようなネットワーク形成が望めるのではないだろうか。

(滋賀大学 北條ゆかり)

アジア経済研究所移転のお知らせ

アジア経済研究所は99年12月に千葉・幕張新都心文教地区に移転しました。図書館は従来の閉架式から開架式になり、利用しやすくなりました。

移転先 〒261-8545 千葉市美浜区若葉3-2-2 (JR京葉線海浜幕張駅北口から徒歩10分、ホテル・スプリングスの脇を通り、幕張海浜公園を横切ったところ)

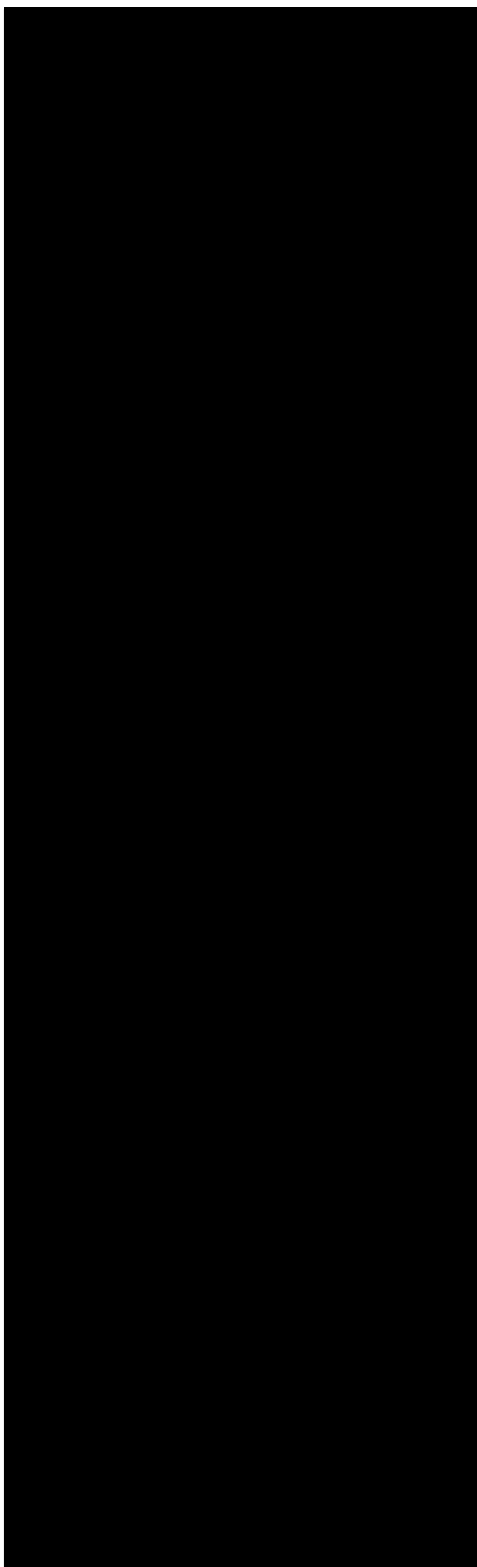
Tel. 043-299-9500 (代)

043-299-9716 (図書館資料情報相談室)

詳細は研究所ホームページを御覧下さい。(http://www.ide.go.jp)

なお図書館業務の再開は12月7日より。

4. 事務局から



第21回定期大会 研究発表および パネル・ワークショップ募集のお知らせ

第21回定期大会は、来年6月3日(土)と4日(日)の両日に亘り、京都外国語大学において開催される予定です。研究発表もしくはパネル、ワークショップ形式(3名以上)の発表を希望される方は、以下の点を明記してご応募下さい。

研究発表：(1)発表者の氏名・所属・連絡先、(2)発表題目とその分野(文学、歴史、政治、経済など)、(3)スライド、OHP、ビデオなどの使用の有無。

いずれの場合も、2月末までに下記実行委員会宛、書面、あるいはe-mailにてお申込み下さい。

連絡先： ☎615-0058 京都市右京区西院笠目町6
京都外国語大学メキシコ研究センター内
第21回定期大会実行委員会
FAX 075-322-6237
e-mail: tsuji@sheep.net0726.or.jp [辻]

学会センターへの問い合わせ

住所変更・異動の御連絡および会費納入に関するお問い合わせは直接、日本学会事務センターまでお願いします。

勤 日本学会事務センター大阪事務所気付

日本ラテンアメリカ学会担当・大戸道子(おとおみちこ)

☎565-0082 豊中市新千里東町1-4-2

千里ライフサイエンスセンタービル14階

Tel. 06-6873-2301 Fax. 06-6873-2300

受付時間 9:30-5:30(土日休み)

事務センターから本部事務局・理事会への報告には1ヵ月近くかかることもありますので重要事項は余裕をもってお知らせ下さい。

また入会・退会手続きは理事会(通常6月定期大会時、10月中旬、3月上旬の年3回)での審議を必要としますので、本部事務局へ御通知下さい。学会事務センターへの通知だけでは行き違いになることがありますので御注意下さい。

この度、上智大学イベロアメリカ研究所のホームページが開設されましたのでお知らせします。URLは以下のとおりです。

<http://www.info.sophia.ac.jp/ibero>

編集後記

12月の『会報』は夏休みをはさんで夏枯れ状態で記事集めに苦慮するのが常で、押しついたり急がせたりで何とか体裁が保てたというのが正直なところです。来年の学会開催に向けては、未だ手探り状態ですが、できるだけ広い分野から発言でき、現状から21世紀を展望できるようなテーマにしたいと考えていますが、そうすると無限に拡散していく危険も。

大会実行委員会のメンバーは次の通りです。
大垣・住田・高林・立岩・松久・加藤・青木・林・北條・小林(致)・辻。

(辻豊治)

№ 70 1999年12月1日発行

☎192-0393 東京都八王子市東中野742-1

中央大学商学部

国本伊代研究室気付

日本ラテンアメリカ学会事務局

TEL 0426-74-3644(研究室直通)

FAX 0426-74-3651(研究室受付)

E-mail: iyo@tamacc.chuo-u.ac.jp